

せんぼく探訪 VOL.8

国記録選択無形民俗文化財
県指定無形民俗文化財

昭和61年12月17日
平成3年3月19日

- ・名称 中里のカンデッコあげ行事
- ・所在 仙北市西木町桧木内字中里
- ・主たる保護団体 中里カンデッコあげ保存会

「中里のカンデッコあげ」は、中里^{さい}の神の小正月行事として伝えられてきており、毎年旧暦の1月15日の夜行われているがその発祥は定かではない。

カンデッコとは、朴(ほお)の木で作った小型の鍬のことで、このカンデッコと胡桃(くるみ)の木で作った男根をしめ縄の両端に結んで一対にし、塞の神堂前の御神木である桂(市天然記念物指定)に豊作や縁結び、災いの防禦など、その年への願いを込めて投げ掛けるのがこの行事である。狙い通りに掛かると願いがかなえられるといわれ、また、その掛かったものをはずして家に持ち帰り、栗や柿、すももなどの木に掛けると多くの実を結ぶといわれていることから、豊穰多産、災疫退散を願う珍しい小正月行事である。



この行事が行われる中里の塞の神は、桧木内川が現在よりも西側を流れていた昔、大洪水で桂の大木が沢より流れ出てここに鎮座したといわれ、応永年間(1394年～1427年)戸沢家盛公が霞の鞭(かすみのむち)の威力をもって一揆を鎮圧し、その帰陣のおり塞の神を奉斎したとも伝えられている。

現在この塞の神堂には、八衝比古(やちまたひこ)大神、八衝比売(やちまたひめ)大神、久那斗(くなど)大神の三神が奉られている。

(塞の神堂前説明板より)

今年の開催は2月21日(木)夜

交通アクセス JR角館駅より秋田内陸線利用、
羽後中里駅にて下車、徒歩2分(所要時間約40分)